

経カテーテル大動脈弁置換術後の運動耐容能の改善を規定する術前因子の検討

1. 観察研究について

九州大学病院では、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特性を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。患者さんの生活習慣や検査結果、疾病への治療の効果などの情報を集め、これを詳しく調べて医療の改善につながる新たな知見を発見する研究を「観察研究」といいます。その一つとして、九州大学病院循環器内科、リハビリテーション部では、現在経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）の患者さんを対象として、手術後の運動機能の回復に関する「観察研究」を行っています。

今回の研究の実施にあたっては、九州大学医系地区部局観察研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、2025年3月31日までです。

2. 研究の目的や意義について

近年、経カテーテル大動脈弁留置術により、従来の手術が困難であった大動脈弁狭窄症の患者さんに対しても治療が可能となり、生命予後の改善を認めています。しかし、術後の運動機能の回復に難渋することもあり、術前の運動機能や認知機能の低下（フレイル）の合併は、術後の合併症の発生や機能回復の遅延、生命予後との関連が報告されています。手術後3か月以上経過しても術前の身体機能や日常生活動作レベルに達しないこともあります。

そこで、今回循環器内科では、TAVI術後運動機能の回復に関与する術前の因子を解明することを目的として、本研究を計画しました。本研究を行うことで、今後のリハビリ介入の必要性やより最適な多職種での介入方法の解明する可能性があります。

3. 研究の対象者について

九州大学病院心臓外科において2014年1月21日から2022年12月27日までに重症大動脈弁狭窄症の診断で経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）を受けられた方375名を対象にします。

研究の対象者となることを希望されない方又は研究対象者のご家族等の代理人の方は、事務局までご連絡ください。

4. 研究の方法について

この研究を行う際は、カルテより以下の情報を取得します。取得した情報の関係性を分析し、手術後の運動耐容能の改善に関与する術前の因子を明らかにします。

[取得する情報]

- ・年齢、性別、身長、体重、NYHA分類、既往歴、併存症、介護保険の有無、Katz index
- ・採血結果（血清アルブミン値、BNP、ヘモグロビン値、C反応蛋白、クレアチニン値、BUN、推定糸球体濾過量、血小板数、リンパ球数）
- ・心臓超音波検査、呼吸機能検査、心電図
- ・術式、手術時間、術後挿管時間、ICU入室日数、術後合併症、術後在院日数、転帰
- ・栄養指標
- ・握力、膝伸展筋力、SPPB、6分間歩行距離、連続歩行距離、5m歩行速度、体組成

- ・予後（転帰、転倒・骨折の有無、再入院の有無）

5. 個人情報の取扱いについて

研究対象者のカルテの情報をこの研究に使用する際には、研究対象者のお名前の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。研究対象者と研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、九州大学病院リハビリテーション部のインターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、同分野の職員によって入室が管理されており、第三者が立ち入ることはできません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、研究対象者が特定できる情報を使用することはありません。

この研究によって取得した情報は、九州大学大学院医学研究院循環器内学分野・准教授・絹川 真太郎の責任の下、厳重な管理を行います。

ご本人等からの求めに応じて、保有する個人情報を開示します。情報の開示を希望される方は、ご連絡ください。

6. 試料や情報の保管等について

[情報について]

この研究において得られた研究対象者のカルテの情報等は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学大学院医学研究院循環器内科学分野において同分野准教授・絹川 真太郎の責任の下、10年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

また、この研究で得られた研究対象者の情報は、将来計画・実施される別の医学研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、前述の期間を超えて保管し、将来新たに計画・実施される医学研究にも使用させていただきたいと考えています。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

7. 利益相反について

九州大学では、よりよい医療を社会に提供するために積極的に臨床研究を推進しています。そのため資金は公的資金以外に、企業や財団からの寄付や契約でまかなわれることもあります。医学研究の発展のために企業等との連携は必要不可欠なものとなっており、国や大学も健全な産学連携を推奨しています。

一方で、産学連携を進めた場合、患者さんの利益と研究者や企業等の利益が相反（利益相反）しているのではないかという疑問が生じる事があります。そのような問題に対して九州大学では「九州大学利益相反マネジメント要項」及び「医系地区部局における臨床研究に係る利益相反マネジメント要項」を定めています。本研究はこれらの要項に基づいて実施されます。

本研究に関する必要な経費は部局等運営経費・講座寄附金であり、研究遂行にあたって特別な利益相反状態にはありません。

利益相反についてもっと詳しくお知りになりたい方は、下記の窓口へお問い合わせください。

利益相反マネジメント委員会

(窓口：九州大学病院 ARO 次世代医療センター 電話：092-642-5082)

8. 研究に関する情報の開示について

この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の研究計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、ご連絡ください。

9. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

研究実施場所	九州大学病院循環器内科 九州大学病院心臓血管外科 九州大学病院血液・腫瘍・心血管内科 九州大学病院リハビリテーション部 九州大学大学院医学研究院循環器内科学		
研究責任者	九州大学病院冠動脈疾患治療部	講師	井手 友美
研究分担者	九州大学大学院医学研究院循環器内科学分野	准教授	絹川 真太郎
	九州大学大学院医学研究院循環器外科学分野	教授	塩瀬 明
	九州大学病院循環器内科	助教	坂本 隆史
	九州大学病院心臓血管外科	講師	園田 拓道
		講師	木村 聡
		助教	神尾 明君
	九州大学病院血液・腫瘍・心血管内科	助教	横山 拓
	九州大学大学院医学研究院 重症心肺不全講座	助教	藤野 剛雄
	九州大学オープンイノベーションセンター	医員	遠山 岳詩
	九州大学病院リハビリテーション科	准教授	川口 謙一
	九州大学病院リハビリテーション部 理学療法士	樋口 妙	
		永富 祐太	
		根津 智之	
		池田 翔	

10. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等ある場合は、下記担当者までご連絡ください。

事務局 担当者：九州大学病院冠動脈疾患治療部 講師 井手 友美
 (相談窓口) 九州大学病院リハビリテーション部 理学療法士 樋口 妙
 連絡先：〔TEL〕 092-642-5862
 〔FAX〕 092-642-5864
 メールアドレス：higuchi.tae.752@m.kyushu-u.ac.jp